

特集 乳腺エコー検査を受けましょう！



タレント小林麻央さんの乳がんが報道され多くの女性が乳がんに関心を持たれた事だと思います。

そもそも日本人の乳がんは少ないと言われていましたが、40年程前から女性の死亡率が増加し乳がんの発見が重要視されはじめ、乳がん検診が各市町村で盛んに行われるようになりました。ところが当時の厚生省は乳がん検診をX線で行うことを原則とすると決めました。乳腺の検査にはX線とエコー検査の二種類がありますが、それぞれ特徴があって両方とも必要です。X線では1mm以下の石灰化を発見するのに有効です。エコー検査は乳腺の中の小さな乳がんを発見できるので大いに活用することが大切です。乳房の変化に気付かず放置していると、がん細胞が増殖して乳腺の外にまで広がり、リンパや血液の流れによって、肺や肝臓、骨など乳房から離れた臓器にまで及びます。定期的な検診をおすすめします。

当診療所では超音波で専門スタッフが乳腺の検査をしています。エコーで小さな乳がんを発見することが可能なので是非当院のエコー検査を受ける事をお勧めします。

マンモグラフィーでは異常が見えにくい高濃度乳腺の人が日本女性の5～8割にものぼり、乳がんになるリスクも高いので、日本乳癌検診学会などが超音波検査の導入もふくめた対策の検討に入っている。

2016. 10/18 読売新聞より

お知らせ



インフルエンザ予防接種 受けられます

- 一般（小学生から） ￥2500
- 福島市民の65歳以上 ￥1400

※65歳以上の方は福島市の助成システムが適用されます。保険証をご持参ください。要電話予約

編集後記

県民健康調査検討委員会の甲状腺検査評価部会

長の清水一雄氏が「『放射線の影響とは考えにくい』とは言い切れない」と辞表を提出。「大事件」だ。ところが報道したのは北海道新聞だけ。とりわけ福島の2紙の沈黙は、この地への圧力の大きさを示している。私たちが、福島から声を上げていくことが大事だ。放射能も健康被害もなかったことにさせるわけにはいかない。（え）

◆検査実施日 金・土曜日
※土曜日は女性スタッフが検査を担当します

◆診察時間 午前 10:00～12:30
午後 2:30～6:00
※お一人さま30分程

◆窓口負担 1900～2500円

- ・乳がんは、女性のかかるがん第一位。
- ・特に40歳以上の方、年一回の検査をおすすめします。
- ・エコー検査は、放射線被ばくがなく、痛みもありません。

若年者は乳腺が非常に発達しているため、マンモグラフィー（X線）よりエコー検査が効果的です。



写真：エコー検査で見た乳がん

私たちが担当します

■ 松江 寛人 名誉院長

元国立がんセンター病院放射線診断部医長
著書「乳腺画像診断法」（金原出版社）
「乳腺超音波診断法」（金原出版社）

■ 篠田 アキ子 検査技師

元国立がんセンター勤務

■ 岩下 浄明 検査技師

元国立がんセンター勤務/日本超音波検査学会・理事
著書「全身がわかる超音波検査のチェックポイント」

3.11反原発福島行動'17

奪われてたまるか！
避難 いのち 子どもの未来

と き：3月11日（土）12時～

ところ：郡山市 開成山 野外音楽堂
集会後郡山駅までデモ行進



私も呼びかけています。
みんなで参加しましょう！

3.11反原発福島行動ブログ
<http://fukushimaaction.blog.fc2.com/>

3.12被曝・医療 福島シンポジウム

と き：3月12日（日）13時～

ところ：福島グリーンパレス 2階 瑞光の間
主催：被曝・医療福島シンポジウム実行委員会

ふくしま共同診療所 Newsletter

ここから通信 - KOKOTU -

第15号 季刊・秋・冬号

診療時間：9:30-12:30/14:30-18:00

	日	月	火	水	木	金	土
午前	●	●	●	-	●	●	●
午後	●	-	●	-	●	●	●

診療科目：内科/放射線科/循環器科/リウマチ科
〒960-8068
福島市太田町20-7 佐周ビル 1階
TEL:024-573-9335 FAX:024-573-9380

布施院長 アピール

甲状腺検査の縮小ではなく拡充を

福島県小児科医会は7月に「甲状腺検査や治療を再検討するべき」との声明を採択し、県に申し入れを行った。それを受け県民健康調査検討委員会の星北斗座長は「9月にも甲状腺検査の対象者縮小や検査方法の見直しの議論に着手」と福島民友で明らかにした。しかし患者や多くの県民が検査縮小に不安を覚え反対する声を上げた。9月14日の検討委員会でも多くの委員が「今後も10年は検査を継続すべきだ」等々と発言した。

すでに4月から甲状腺検査受診者（保護者）の同意書の取得が行われている。昨年の小児科医会の要望を受けたものだ。「同意しません」にチェックを入れた人には、県立医大は受診案内を追加で送らない。同意書の説明とあわせて「甲状腺検査は必ず受診しなければならないのでしょうか」と題したQ&Aも載せている。

県立医大の緑川早苗准教授は、小中学校などへ出前授業に行き「がんが見つかったら嫌だと思う人は、甲状腺検査を受けない意思も尊重されます」と子どもに話している。国際学会で緑川氏は同意書に関して「同意20%、同意しない5%、残り75%は返事がない。この75%は消極的に検査を希望しない可能性がある」と発言。がんが見つかるのは大人でも辛いことだが、成人病検診等を奨励するのは、がんを早期に発見し早期に治療するためだ。県は「デメリット」を強調して検査に対する嫌悪感をあおっているが、初期被ばく量もわからず、「（大人の）甲状腺がんは予後がよい」と福島の子どものように同様に言えるのかは検査を続けなければわからない。

10月21日付の北海道新聞に、甲状腺検査評価部会長で検討委員会委員の清水一雄氏（日本甲状腺学会前理事長）が部会長を辞任する、という記事が載った。清水氏は、「放射線の影響とは考えにくい」との中間とりまとめに疑問を感じ、「多発しているのは間違いのない。今後も放射能の影響を考慮に入れながら慎重に検査をすべき」と述べた。甲状腺専門家の委員でさえ「この多発は異常だ」と感じ始めている。

10月13日には、「甲状腺検査の維持」を要望する請願が県議会本会議で全会一致で採択された。県民の意は「縮小ではなく拡充」だとはっきり示された。最近、大人の甲状腺がんが増加という報告もある。当診療所でも甲状腺がんになった患者さんがいる。大人も含めて甲状腺検査の必要性を訴え奨励していく必要がある。疫学的データが集まるのは10年から20年後。チェルノブイリでの甲状腺がんが被ばくの影響と認められたのも多発した後である。水俣病も長らくチッソによる有機水銀が原因ではなく、風土病だと考えられ放置されたために、被害が拡大した。60年がたった今もお多くの人が患者認定を待ち、損害賠償を求める訴訟は続いている。その負の歴史を繰り返してはならない。



子どもも大人も検査を受けましょう

検査日	土	日	月	木	金
午前 9:30-12:30	○♡	○	○	○	○
午後 2:30-6:00	○♡	○	-	-	○♡

○→甲状腺エコー ♡→乳腺エコー
※土曜日の乳腺エコー検査は女性技師が担当します

※4面に乳腺エコー検査の特集をしています

10/20 怒りの福島大行動やりました！

10/20、布施院長が呼びかけ人となって「被ばくと帰還の強制反対 甲状腺検査縮小反対 怒りの福島大行動」を実施。福島市民会館で集会後、県庁に向かってデモ行進（写真上）と申し入れ行動を行いました。その様子は翌日の福島民報と福島民友で報道されました。